豊かな国際交流

17カ国・地域と28協定
多様な海外留学制度

キャンパスで寮内留学も

本学は、世界17カ国・地域で28の国際交流協定を結び、活発な教育・研究交流を行っている（国際交流協定校＝17カ国・地域21大学／国際交流組織間協定＝3カ国7機関／研修校＝4カ国5校）。

夏と春の短期留学プログラム、中期・長期交換・セメスター交換留学プログラムなどによって、多様な海外留学が可能。留学支援講座もきめ細かく開講している。

キャンパス内では、海外からの多くの留学生が学んでいる。国際交流会館では寮内留学プログラムを展開。海外の協定校からの交換留学生、日本語や日本文化を学ぶ短期留学生との共同生活を通じて、異文化理解や国際コミュニケーション力を養っている。下記に4人の留学体験記を紹介する。

冬期日本語・日本事情プログラム開講中

本学の国際交流協定校などの学生が、日本語や日本文化を学ぶ冬期日本語・日本事情プログラムが1月9日から始まった。初参加の忠北大学（韓国）やフランスのリヨン政治学院など8カ国36人が参加している。

日本語学習のほか、神奈川県相模原市立鶴の台小学校での授業体験や三鷹の森ジブリ美術館見学、歌舞伎鑑賞、書道教室＝写真、ひな祭りパーティー、ホームビジットなどの多彩な企画に参加し日本への理解を深める。プログラムは2月28日まで行われる。

全力出し笑顔で楽しむ

長期交換留学プログラム英語圏　加藤　一真（文4）

▶ 留学中テニスも

カナダに滞在した10カ月は、多くの気付きがあり、決して忘れられない思い出となりました。

「何が何でも英語の力を伸ばす」と意気込み、人生で初めて外国の地に足を踏み入れました。

最初の2カ月は、語学学校で大学準備講座を受けました。膨大な課題についていけずに何人かのクラスメートが脱落するなか、私は何とか大学で正規授業を受講する権利を得ました。

しかし、海外の大学での勉強は想像をはるかに超えた厳しさがありました。

語学学校での勉強量は想定内だったので乗り越えられましたが、大学（マウントアリソン大学）には留学生の能力に合わせてくれる授業など存在せず、内容が理解できないことも多くありました。ある先生に「君には難しいからこの授業を取るのをやめるべきだ」と言われました。

悔しいので図書館にこもり、ボイスレコーダーで授業を録音したものを何度も聞き、教科書を読み直し、一日のほとんどを勉強に費やす生活を続けましたが、成績は伸びません。先生や友人に分かるまで説明してもらうなど助けを求めました。

サッカーなど課外活動にも参加、オンとオフの切り替えが上手くできるようになり、生活が楽しくなってきたころには、成績でも高い評価を得られるようになりました。

完璧な人など存在しない、時には他人に助けてもらうことが必要です。そして「全力で笑顔で楽しむ」ことも。留学では語学よりも大切なことを学びました。

「日本語を絶つ」と決意

中期留学プログラム英語コース　古井　雅貴（文3）

▶ 友人との旅行先で。右端が古井さん

ニュージーランドに4カ月間、語学留学しました。それまで外国に住む経験は一度もなく、英語力に自信がなかったこともあり、正直不安でいっぱいでした。しかし、心に秘めた一つの断固たる決意を持って留学に臨みました。

それは「日本語を絶つ」ことです。治安が良く移民に寛容なニュージーランドを留学先に選ぶ日本人はたくさんいます。私の留学先、ワイカト大学も例外ではありません。ですから、日本語を絶つのは留学生として当然だと思いますが、シャイな性格もあり、外国人に自分から話しかけられるのか不安でした。

語学研修が始まって早々、私は思い切って日本人留学生との接触をできる限り絶ちました。そして日本人の輪の中にも入らないようにしました。すると焦りや不安からではない、自分の中の何かが変わったような解放感が生まれ、気がついたら多国籍の留学生に積極的に話しかけている自分がいました。英語でコミュニケーションをとる日々を心底楽しんでいる自分がいたのです。

あこがれていた英語漬けの生活はあっという間に過ぎていきましたが、帰国後には達成感で満ちあふれていました。忘れていけないのは、この価値ある日々は私一人では決して得られなかったということです。

家族の協力、国際交流事務課のサポート、そして切磋琢磨し合える仲間に感謝しています。

子どもたちが良き先生

夏期留学プログラムドイツ語コース　杉本　瑞樹（人間科学1）

▶ ホストファミリーと。絵を手にする杉本さん

ドイツでホームステイをした3週間、最初の数日は苦労しました。ドイツ語は大学に入学してから始めたので、ホストファミリーとの会話は聞き返さないで済むことは少なく、「目薬を買いたいので店の場所を教えてほしい」と伝えるだけで軽く30分はかかりました。

しかし大事なのは、諦めないこと。使えるものは全て使い、ジェスチャーから絵までも交えて意思疎通を図り、伝わったときの喜びは表現できないほどです。

そうやって過ごすうちに不思議に苦労は減り、楽しむ余裕も生まれました。良くないのは口を閉ざしてしまうことだと思います。

ホームステイ先では子どもたちとの交流が印象的で、3人の子どもたちとはすぐに仲良くなり、学校から帰ると子ども部屋に毎日連れて行かれました。

長女は偉大な先生で、ドイツ語をよく教えてくれました。彼女のおかげで発音は随分良くなったと思います。次女と第三子の長男には、よく肩車をせがまれ、飽きるまでやってあげました。ほかにも私が家族にカレーを振る舞ったり、ファミリーには誕生日を祝ってもらったりと毎日楽しい経験をしました。短い交流でしたが、彼らとの別れはとてもつらかったです。

失敗を恐れていては毎日を楽しむことはできなかったと思います。諦めず、何事にも挑戦してみること。語学研修での一番の収穫です。

目的をしっかりと持つ

寮内留学プログラム（後期）　立花　美月（商3）

▲ 短期留学生とともに左が立花さん

国際交流会館で留学生とともに暮らす寮内留学を始めて3カ月が過ぎました。寮では普段、みんながダイニングに集まって、楽しく自分の国の話をしたりみんなで作ったご飯を食べたりします。

ダイニングでは、たこ焼きパーティーや映画を見るなどいつもにぎやかです。そんな楽しい寮生活の中で私が一番印象に残っているのは、留学生がダイニングで勉強している姿です。留学の目的は人それぞれだと思いますが、ちゃんと勉強して成長したいという目的意識を感じました。

周りが楽しそうにしている中で勉強するのは、私にとって難しいこと。もしも同じような状況の場合、私は周りの目を気にして気恥ずかしくなってしまうと思います。しかし、その状況で彼女が勉強していたのは、日本で学びたいという明確な目的があったからです。私は彼女を見習いたいと思いました。

その日から普段の生活を楽しむだけではなく、しっかりと目的を持って過ごそうと決心し、具体的な目標も決めました。

私にとって寮内留学はかけがえのない思い出を作ることができ、私の持っていない良いものを寮の仲間から与えられるという貴重な経験となりました。

※寮内留学プログラム＝専大生が国際交流会館でレジデント・パートナーとして滞在し、国際交流協定校などからの特別聴講生や日本語・日本事情（JLC）プログラムなどに参加する短期留学生の学習・日常生活をサポートする。